壮観だった大集會

母親大会を顧る座談会

日本母親大会は八月二十三日から二日間東京で、全国のお母さんたちが集つてひらかれました。三池主婦会からも四名が出席されましたが、九月五日午後四時から出席者に集つてもらい、大会をふりかえつて座談会をひらきました。以下は、この日の座談会で話された大会のもようです。出席者＝中山ハツミ、上田八重野、三浦美智子、大石知恵子さん。司会＝境編集部長、

主婦会中央執行委員会で大会の報告をきく

司会　大牟田からは何名参加しましたか。

大石　十名でした。主婦会から四名、先生二名、母親と女教師の会から四名。

司会　全国からどのくらい参つたんですか。

大石　分科会では六千名、全体会議には東京のお母さんたちが大勢参加して一万名ぐらいでしたね。

司会　壮観ですね。どんな感じでしたか。

三浦　北から南からお母さんたちが一万名も集つたことにはとても感動しましたね。

大石　力強かつたですね。この人たちが全国に散つて何かをすると思えばね。

大石さん

三浦　組織からでなく私盲できた人もあり、それをみると私たちは恵まれているとつくづく思いました。だが、組織をもたない人も帰つてから一人でも二人にでも話しをしてくれるだろうと思うととても力強く感じますね。

一人一人がオルグに

司会　いよいよ活動に入るというのがこんどの特徴だつたのでしょう？　具体的に話合われたものは……

大石　地域に帰つて眠つている人を正しい方向に導く、これを私たちがやるのだというのが大会のあり方でした。

よい先生が勤評反対で処罰された

司会　勤評反対では意見が一致しましたか？

三浦　一致まではしていません。私の分科会では久留米の人が母親大会の裏で誰かがこの会を牛耳つている上発言して、さんざんやりこめられました。まだ組織当妨害が激しいですね。

上田　殆んどの人が反対でしたがなかには賛成の理由をあげていた人がいました。社会で自分たちが勤評されているから勤評するのは当然だ。また悪い先生にたいしてウラミがあるから。法律にあるからしかたがないなどが主なものです。だが大勢は先生にストはしてもらいたくないが、将来のためにはかえられないということで、皆が立上つて反対してゆくということでした。一人の若いお母さんが、はじめは賛成だつたが、自分の子のうけもちの先生が反対闘争で処罰された。ところがその先生は貧しい子供を主体に力をいれて子供たちにも尊敬されており、逆に子供から「どうしてあんな先生を処罰するのか？」と私に抗議してきた。それでいろいろ陳情にいつたが、結局内幕はつきつめられなかつた。私はこのとき以来、勤評反対にかわつたと訴えておられました。

三浦さん

反対意見も出して

司会　そんなに右から左までいたんですか。

中山　それは勤評問題にかぎつてのことでしたね。反対の人にもどしどし意見を出させて議論すべきだつたと思いますね。

司会　勤評にはにんどどうすることにきまつたんですか。

三浦　勤評は戦争につながつていることを私たちが一人一人もつて帰つて、お母さんたちを正しく目ざめさせる役をするわけです。

中山　先生たちが直接するより、お母さんたちが先生たちのいえないことをカバーしていつてやるということです。

司会　三池からもつていつたことはどんなことでしたか

大石　企業整備と教育庁への抗議でした。企業整備反対を提案しましたが、お母さんたちにピンとこない、それで言葉をかえて首切反対といつた。結局、全国の労働者の企業整備反対が決議されました。教育庁抗議は決議までにはいきませんでした

中山　三池の評議員大会で酒飲みを罰したらといわれたことがありましたが、私は酒飲みのことで提案しましたが、いろいろでてきて結局とりあげられた。私が酔漢罰則を要求しましようといつたら、ワーツと笑われたそしたら助言者の方が「笑いごとではありませんよ」といわれていたが、とてもうれしかつたですね。

中山さん

自分をまず振返る

司会　この大会から学んできて子供や夫にたいする見方はどうですか？

大石　直ちに効果がでるというわけにはいかないでしようが、物の見方はかわつてくるでしよう

司会　急にはわからないにしても行つたことで、何かの形でわかつているということですね。

大石　そうです役員になる前は相手を責めていた。いまでは自分をまず振返つてみる。そういう心の余ゆうができた。

もつと参加者を

司会　さいごによくに印象的であつたことや、こんどの問題について何か……

大石　百里ガ原基地反対で一人の町長さんが自分の財産をなげ売り米軍の滑走路を買いとられたことが出された。私たちは平和をよく口でいうが、この人は一人でこれをやつている。その実行力に胸が熱くなる思いでした

三浦　このつぎに行く人と手を組んで一人、二人でも行きずりの人に立話しでもして大会の様子を知らせたい。そして、組織外にももつといろんな人がいるということを頭に入れて、思いあがることなく、真剣に生活と取り組んで行きたいと思います。

上田　現在主婦会活動をしているのは主婦会だけのような考えでしたのに、大会に出席してみると、考えは違つてもでお母さんたちがもつている願いは同じだとわかつた。とくに外国代表から話をきいたが外国の人も日本人も同じ悩みをもつていることがわかり、もつと広くお互いに手をつなごうという気持がわきました。

上田さん

中山　大会にはもつと多くの人に行つてもらいたいとつくづく感じますね。

大石　そう感じましたね。

司会　では今日はこのへんで終りましようか。どうもお疲れのところをありがとうございしまこの発言以外にまだまだ貴重な意見が続出しましたが、紙面の都合で割愛しました。　編集部

映画

【ものがたり】

炎上

三島由起夫の名作「金閣寺」の映画化

父から口癖のように、この世で最も美しいものは驟閣であると教えこまれ、信仰に近いまでの憧憬の念を抱いていた溝口は、父の親友で現在この寺の住職を務めている田山道幹老師の好意により徒弟として住むことになつた。

昭和廿年夏、古い都にも、戦争の影響が見られるようになつた。そんな一日、溝口の母あきがモンペぱきのうらぶれた姿で息子に逢いたさ一杯で驟閣寺にやつてきただが、溝口は何故か、この母の訪問を喜ばず、驟閣に近ずこうとする母を突き飛ばすのだつた。

溝口の母あきは生活苦から老師の好意によつて驟閣寺に住みこむことになつた。溝口は母の住込みに極力反対した。父が肺病で療養中、母は姦通していた。この汚れた母を美しい驟閣に近づけることは彼には到底出来なかつたのである。

母との口論の挙句、街にさまよい出た溝口は、芸奴を伴つた老師に出会つた。棒をのんだように突つ立つ溝口に老師は「馬鹿者ソ」と鋭い一喝を与え立去つていつた

溝口は信頼していた老師から今や完全に見捨てられた自分を見出し、絶望のどん底へつき落された深夜、寝静つた驟閣寺は物音一つしない。漆黒の闇の中にマツチの小さなほのおに浮彫りされて溝口の顔が現れた。溝口はふるえる手で三たびマツチをすつた。白煙がたちのぼりその中から赤い透明のほのおが吹きあがつた

溝口は煙にむせびながら虚脱したようにほのおを凝視していた。

美しくそゝり立つ驟閣が夜空をこがして炎上する。その美しさに溝口は魂を奪われた。

（十日よりグランドで上映）

心のふるさと

〈庭の山しようの木
鳴る鈴かけて
鈴の鳴るときや　出ておじやれ
〈鈴の鳴るときや
なんと言うて出ましよう
駒に水くりよと
言うて出ましよ

〈なんぼ搗いても　この稗搗けぬ
どこの御蔵の　下積みか
〈稗は搗いても　来るこた来るが
しばし待ちやれ　おそごさる
〈おまや平家の　公達ながれ
おどま追討の　那須の末よ
〈那須の大八　鶴富棄てて
椎葉立つときや　目に涙
〈稗の五升とま　歌でも搗く
三斗五升かろ　杵で搗く
〈泣いて待つより
野に出て見やれ
野には野蒜の　花盛り
〈ここで別れて　またいつ逢おか
明けて三月　小寒茶時よ

「稗搗節」は日向の椎葉地方に古くからつたわる民謡です。椎葉村は宮崎県耳川（美々津川）の上流にあり、五箇荘・米良などとともに、日田の国境を走つている〃九州背梁〃の山間部の一僻村で、人々は秘境とよんでいますが、香り高い伝説を数多く秘めているところです。

平家の落人椎葉の里に伝わる

ひえつき節（宮崎県民謡）

文治元年（一一八五年）三月二十四日、壇ノ浦の戦いは、平家滅亡の戦いとして源平合戦に終止符をうち、敗れた平家の残党は世をしのぶため安住の地をもとめ、椎葉の山奥ににげこんだといわれます。

しかし、平氏の落人探索の目が厳しく、壇ノ浦に扇の的を射た那須与市の弟、大八郎も跋命をうけ、九州にむかつたのです。

椎葉の山里で、昨日までの栄華も忘れて野良仕事に励む一党の姿を見ては、直ちに刃をもむけかねたのでした。しかも、清盛の血を引く鶴富姫のこの世ならぬ美貌は武将の心を完全にとかし二人は人目をしのぶあう瀬に悩んだといわれます。やがて大八郎へ帰国の命がだされ、ゆるされぬ恋に終つたのです。

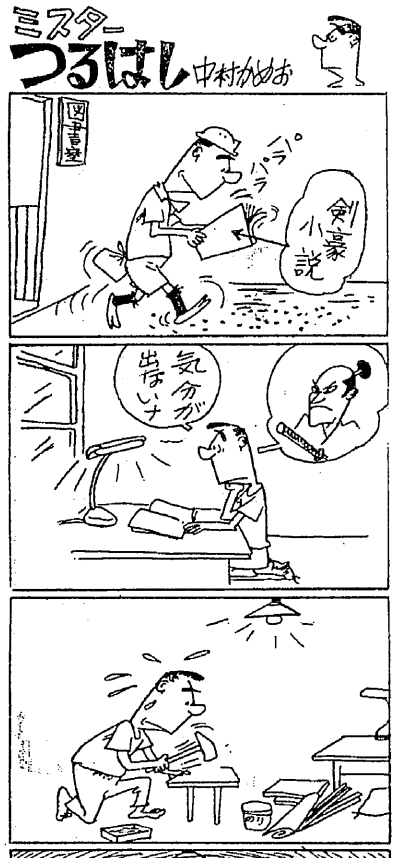
この悲しい運命は封建社会の遺物として、いまなお語り草になつています。

椎葉盆地は米がほとんどとれないため、稗を常食としています。稗搗き道具を手に手に臼を囲み、稗の皮を剝ぐ仕事の〃はたらきた〃にうたわれるところから「稗搗節」の名もうまれたのです。

二拍手のテンポ、二人の恋物語を歌詞におりこみ、流麗で哀感をこめた旋律にはすてがたい味があり、しみじみしたうたですが、これも労働歌の一つです。

（やました）

ミスターつるはし　中村かめお



なかまの本棚（1）

青年の明日への指針

青年労働者の前進

第一回世界青年労働者会議の報告と決議

青年労働者のことについて語ることは、とりもなおさず希望と困難と、そして成功と闘争について語ることである。

青年労働者の闘争は、ながい年月にわたつて続けられてきた。青年は不正、束縛、無知に甘んずることが出来ないからだ。

たしかに青年労働者たちは、笑い興じ、歌をうたい、ダンスをし、スポーツを楽しんでいる。しかし青年労働者がその実態に満足しているのではない。世界の大部分において毎日のように闘わなければ、かれらの正当な希望もはかない夢におわつてしまうような実状が、ながく続いている今日青年労働者たちは他にどうしようもない。

青年の子供のころの空想的な夢が、眼のまえで実現されつつある。なんと美しく、偉大なことではないか！。このような時代に生きることを考えると、われわれは自分が誇らしくなる。やがて月世界への旅が実現しようという時代に、われわれは未来についてよく考えぬみなければならない。

地球上には、飢えた青年たちがたくさんの仕事を探し求める青年たちが、明日は素晴しい人になれる無学の若者たちがいすぎるのではないか。

しかし、社会主義国の数百万の青年たちにたいしては、こんにちすでに、はかりしれない可能性が与えられている事実に目をふさいでいることはできない。

利潤追求と戦争準備のうえにつくられた資本家の政策も、青年の未来と現在の生活条件のうえに影響を与えずにはおかない。

人殺しのためと、その準備のために費やしている数十億の経費をもつてすれば、他のどんなことともできないことはないだろう生産の中に入り、またいま入りつつある数百万の青年を〃新しい波〃とよぶことはできないだろうか。

さる七月十四日から二十日まで、チエコス・ロバキヤの道都プラークでひらかれ、日本からも十名の代表が出席した第一回世界青年労働者会議の報告と決議集です。形式が報告と決議をまとめたものになつているが、〃新しい波〃青年の明日への指針として立派な本だと思います。　（さ）

世界労連日本出版協会出版
一四六頁　一五〇円

（1）意識をうしない（ひきつける）ケイレンをおこす。この状態がつづいたら百人のうち三十人（30％）が死んでしまう。

（3）たとえ助つてもバカになり、一生なおらないのが30％

（4）完全になおるのはわずかに40％でそれも青年になつてから。

（5）この病気にかかるのは十才以下が70％

（6）この病気をうつすのは人間の血を吸う蚊にかぎられる。

（7）予防には蚊をなくすことがいちばんよい。

（8）帽子をかぶらずに長時間ひなたにいると発病の誘因になる。

【衛生】

日本脳災についてお母様の心得